

デューク・エリントンのミュージカルアート（壁画）制作に関する別紙

■『新潟市とデューク・エリントン』について

1964年の新潟地震により新潟市の西港は壊滅的な被害を受けました。昭和大橋の落橋、佐渡汽船埠頭は船が着けない程の被害を受け、新潟西港の工業地帯も海水に覆われました。これらの惨状を救い、復興に欠かせない一つの力に、ジャズアーティストのデューク・エリントンによる大きな善意の力があります。それは、当時来日していたデューク・エリントンが、新潟の惨状を聞き、ハワイ公演をキャンセルしてまで、東京にて新潟地震救済資金募集の特別コンサートを行い、収益金をすべて新潟市に贈りました。この寄付金は西港復興の為に木材購入に充てられたとの事です。後にこれらが切掛けで、新潟市より国際親善名誉市民の称号を受けました。

■『古町と Jazz』について

第2次世界大戦後（1945年8月終戦）の進駐軍の駐留やアメリカ文化センター（古町8番町）の存在や、積極的にアメリカ文化を取り入れている時期でもあり、古町エリアでは、演奏会が頻繁に行われていました。その後もデューク・エリントンによる義援金の寄付や国際親善名誉市民の称号は、新潟市の Jazz の盛り上がりにも拍車をかけた1つになりました。こういった背景もあり、新潟市の中心であった古町では、多くのお店から Jazz が流れてくるような場所になり、2003年にはデューク・エリントンの名前が冠についた『デューク・エリントン・メモリアル・新潟ジャズストリート』の第1回が開催され、現在に続いています。

■ミュージカルアート制作アーティスト『NOVOL（ノボル）』プロフィール

1979年生まれのパインター/デザイナー。東京在住。2002年、独学にて絵を描き始め、2007年より本格的にアーティスト活動を開始。以来、インプロビゼーションさながらのスピードと画力で様々な手法の作品を残しながら、ジャンル問わず様々なアーティストの CD/LP ジャケットや、フライヤー&ポスター等、音楽関連のデザインワークを数多く手掛け、アパレル、企業、雑誌へのイラストレーション提供や、TV番組の OP 映像を手掛けるなど、幅広くコラボレーションを展開している。そして、壁画制作や個展、ライブペインティングなどで、国内外を飛び回り、人との出会いを楽しみながら、精力的に描き続けている。2017年、活動10周年を迎え、自身初となる作品集"ten."を出版。さらなる高みを目指し活動中。

■完成披露演奏を行う Jazz バンド『新潟ジュニアジャズオーケストラ』について

新潟ジュニアジャズオーケストラは、2012年10月に新潟ジャズストリート実行委員会により発足されたバンドです。メンバーは小学5年生から高校3年生で、月に2回東区プラザで練習を行っています。スタンダードなジャズから、アンパンマンのジャズアレンジまで、ジャズの魅力を伝える様々な曲を演奏しています。

■ミュージカルアートについて

ミュージカルアートの世界的なムーブメントは、近年日本でも各地で同時多発的に行われています。主にアートを日常に寄せる意図も大きいのですが、近年はミュージカルアートが出来ることで、街に文化的な装いをもたらし、人の動きの流れが変わり、観光資源にもなることから、文化の粋を超え、観光や都市計画などにも用いられるようになっていきます。

■A Touch of Art について

ミュージカルアートを中核に音楽やスポーツなど、ストリートカルチャーやエンターテインメントを活用し、社会や地域の課題への取り組み、子供や次世代への創造性や可能性に繋がる活動や環境作りを行っています。

ホームページ：<http://atouchofartinniigata.jp/> 担当：大西（スタイルドライブ(株)）